

子孫に残そう曾根干潟

北九州市の生物多様性において最も重要な

曾根干潟の自然を守っていきましょう！



左は夏羽、右は冬羽のズグロカモメ

ハサミを上げ下げしているカニ、それを狙って駆け寄るシギ、砂の上には無数のウミニナ。春や秋にはシギ・チドリ類など多くの渡り鳥が翼を休め、冬には海上を漂うカモ類の群れを見ることができます。

干潟は私たちの生活と密接な関係を持ち、漁業の上でも資源を確保し、育てる場所として大切です。自然の浄化槽として都市とそこに住む人々を支えています。そして、リクレーションと環境教育の優れた教室といえます。

逸見泰久「和白干潟の生きものたち」より



ラブラブ？なダイシャクシギ



大型カモのツクシガモ



絶滅が危ぶまれるクロツラヘラサギ



©日本野鳥の会北九州支部



生きた化石と呼ばれるカブトガニ

自然の海岸がほとんどなくなってしまった北九州市に、奇跡的に残されていた曾根干潟は、最大干出面積 517 ヘクタール、北部九州に残された広大な干潟です。後背地は住宅地、水田、草地などが広がり、その間を竹馬川、大野川、貴川、朽網川の4本の河川が流れ、曾根干潟に流入しています。この河川の流入によって、干潟の塩分濃度を微妙に調整し、多様な底生生物相を形成する水域をつくっています。曾根干潟の生物相は豊かで、その種類、数は曾根干潟の重要性の指標となっており、ラムサール条約登録の条件をもクリアーしています。

ズグロカモメ
カニをゲット！



曾根干潟は北九州市内で最も多くの野鳥が観察できる場所。
毎月第一日曜日に定例探鳥会を開催中。

写真提供：S. Takahashi



ハクセンシオマネキ